

# 岩手県の 土地改良



## CONTENTS

- 平成23年度臨時総会を開催……………2
- 岩手山麓土地改良区発足に向けて……………4
- 第34回全国土地改良大会 inみやぎ……………5
- 豊沢ダム竣工50周年記念事業開催……………6
- おいしいお米はどうやってできるのかな……………6
- 越前堰の歴史と農業水利施設の役割を学ぶ……………7
- TPPで日本の農業はどうなる……………7
- 未収賦課金解消に向けて……………8

2011 No.557

■発行所／岩手県土地改良事業団体連合会 盛岡市本宮二丁目10番1号  
TEL(盛岡)019(631)3200 FAX(盛岡)019(631)3260

■編集発行人／田山 清 ■印刷所／永代印刷株式会社

<http://www.iwatochi.com>

津波で浸水した水田からの収穫 (陸前高田市広田町)



# 平成 23 年度臨時総会を開催

## ▶ 新役員 13 名を選任



本会では 8 月 26 日、任期満了に伴う役員改選を議題とする臨時総会を開催し、新役員 13 名を選任した。

開会にあたり高橋三一会長職務代理者は「農業農村整備の予算を巡る状況は、予断を許さない状況にあるが、新たな

農業農村づくり、本県の復興に向け、国や県、関係機関と連携し、役職員一丸となって努力していく。会員各位の更なるご支援とご協力をお願いします」と述べた。

続いて、高橋篤永沢土地改良区理事長を議長に選任して

役員改選の議案が上程され、理事 10 名と監事 3 名が満場一致で選任された。

また、9 月 1 日には第 1 回理事会・監事会が開催され、互選によって新会長はじめ三役が決定した。

【岩手県土地改良事業団体連合会 第 15 期役員】

広域振興局	旧振興局の区域	役員定数	所 属	職 名	氏 名
盛岡	盛岡	3	越前堰土地改良区理事長	副 会 長	田 沼 齊
			山王海土地改良区理事長	理 事	高 橋 勘 一
			一方井土地改良区理事長	監 事	黒 澤 金 一
県南	水沢	2	胆沢平野土地改良区理事長	理 事	及 川 正 和
			江刺猿ヶ石土地改良区理事長	会 長	高 橋 三 一
	花巻・遠野	2	豊沢川土地改良区理事長	理 事	平 賀 巖
			遠野市土地改良区理事長	総 括 監 事	浅 倉 俊 平
	北上	1	岩手中部土地改良区理事長	副 会 長	菊 池 勲
	一関・千厩	2	照井土地改良区理事長	理 事	阿 部 克 郎
一関東部土地改良区理事長			監 事	對 馬 喜 代 夫	
沿岸	宮古・釜石・大船渡	1	山田町土地改良区理事長	理 事	川 村 良 治
県北	久慈・二戸	1	馬淵川沿岸土地改良区理事長	理 事	山 下 正 勝
学識経験者		1		専 務 理 事	田 山 清

岩手県土地改良事業団体連合会  
第15期 役員名簿

任期 平成23年 9月 1日  
平成27年 8月31日

平成23年9月1日現在



会長 高橋 三一  
(江刺猿ヶ石土地改良区)



副会長 田沼 齊  
(越前堰土地改良区)



副会長 菊池 勲  
(岩手中部土地改良区)



専務理事 田山 清  
(学識経験者)



理事 阿部 克郎  
(照井土地改良区)



理事 及川 正和  
(胆沢平野土地改良区)



理事 平賀 巖  
(豊沢川土地改良区)



理事 高橋 勘一  
(山王海土地改良区)



理事 川村 良治  
(山田町土地改良区)



理事 山下 正勝  
(馬淵川沿岸土地改良区)



総括監事 浅倉 俊平  
(遠野市土地改良区)



監事 對馬 喜代夫  
(一関東部土地改良区)



監事 黒澤 金一  
(一方井土地改良区)

# 岩手山麓土地改良区 発足に向けて

## ▶ 越前堰・岩手山麓南部・ 玉山土地改良区が合併予備調印

盛岡市・滝沢村など2市2町1村に広がる、越前堰土地改良区（田沼齊理事長）、岩手山麓南部土地改良区（井上良一理事長）及び玉山土地改良区（工藤定幸理事長）は、平成24年7月の合併を目指し、9月28日「ホテル東日本」で合併予備契約書に調印を行った。式には3土地改良区の役員、岩手県の関係者ら約80名が出席した。



【式辞を述べる田沼理事長】

統合整備推進協議会長の田沼理事長は「現在の農業を取り巻く環境変化に対応できる土地改良区を目指し、経営基盤の強化を図っていく。これからは、新土地改良区の設立に向けて様々な困難を乗り越えて無事、合併できるよう努力していく」と式辞を述べた。

合併予備契約書に調印したのは田沼、井上、工藤の3理事長

のほか、立会者として谷藤裕明盛岡市長、田村正彦八幡平市長、深谷政光雫石町長、民部田幾夫岩手町長、柳村典秀滝沢村長、中田光雄盛岡広域振興局長、高橋三一水土里ネットいわて会長、伊東徳也岩手山麓土地改良区連合理事長の8名が署名した。

来賓祝辞では、高橋水土里ネットいわて会長が「本地域は県の中央部に位置し、戦後に岩手山麓開拓建設事業により切り拓かれた、県下有数の農業地域である。しかし、造成されてから既に40年以上が経ち用水施設の老朽化による機能低下が著しく、維持管理が困難な状況である。今回の統合を機に、土地改良区の体質改善と健全な運営基盤の強化を図り、地域農業の発展に大きく寄与されたい」と力強く激励した。

運営経費の節減、重複組合員の解消、施設管理の充実を目指し合併に取り組む。

予備契約調印終了後3名の理事長は互いに握手を交わし、新土地改良区の発足に向けて決意



を新たにしていた。



【契約書に署名する高橋会長】

今後は、各土地改良区の総代会で合併議決並びに合併予備契約書の承認を得て、知事の認可を受け、来年7月には新土地改良区が誕生する予定である。

名称は「岩手山麓土地改良区」で、現在の岩手山麓南部土地改良区の周辺に事務所を置く。

受益面積は2,908ha・組合員数2,665人となり、受益区域は盛岡市、八幡平市、雫石町、岩手町、滝沢村の5市町村に跨る。



【がっちりとして握手を交わす  
工藤・田沼・井上（左より）  
の3理事長】

# 第34回全国土地改良大会 みやぎ

## ▶ 『復興へ 土地改良の底力を! がんばろう東北・日本』がテーマ



第34回全国土地改良大会 in みやぎ(主催:全国水土里ネット・水土里ネットみやぎ)が、10月20日～21日の2日間にわたり、宮城県仙台市にある「仙台国際センター大ホール」を中心に開催された。

全国から集まった約1,100人の参加者は、3月11日の東日本大震災により未曾有の被害を受けた水土里ネット及び組合員等の被災状況を目のあたりにし、早期の復旧・復興に向けて一体となり取り組むとともに、防災対策を含む今後の農業農村整備事業の更なる推進の必要性を再認識していた。

主催者の野中広務全国水土里ネット会長は「先に、東日本大震災による被災地を訪問し、津波で流された現地を視察した際は言い表す言葉もなかった。被災県民だけでなく、日本国民全体で総力を挙げて復旧・復興に取り組まなければならない」と挨拶した。

また、来賓挨拶で岩本司農林水産副大臣が、「東日本大震災により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りすると共に、被災された方々に心よりお

見舞い申し上げる。農林水産省としては、水・食料の供給に万全を期すとともに排水機場の応急復旧や水路等の瓦礫処理を進めている。農業生産の基盤である農業水利施設の復旧・復興は、欠かすことができません、そのためには今後も農業農村に関わる皆様の多大なご協力・ご尽力をお願いしたい」と述べた。

土地改良事業功績者表彰では、農林水産大臣表彰6名、農村振興局長表彰16名、全土連会長表彰47名が表彰された。

本県からは、一方井土地改良区の黒澤金一理事長が農村振興局長表彰、岩手中部土地改良区の菊池勲理事長が全土連会長表彰を受賞した。



【農村振興局長表彰の黒澤理事長】



【全土連会長表彰の菊池理事長】

その後に行われた被災報告では、本県を代表して水土里ネットいわての大和光事業調整監が、沿岸部の土地改良区事務所が津波で流出したことや、土砂・瓦礫が農地に堆積した状況、内陸部の農地や農業用施設の被災状況等を報告すると、参加者らは沈痛な面持ちで聞いていた。

最後の大会宣言では、水土里ネット名取の伊藤秀利さんと小島ますみさんが、「我々は今こそ原点に立ち返り、未曾有の被災を乗り越え、一致団結して復興・復旧に立ち上がり、未来に誇れる美しく豊かな日本の原風景を蘇らせ、新たな農村づくりに邁進していかなければならない」と声高らかに宣言し、満場の拍手で採択された。

大会参加者らは翌21日、高砂南部排水機場や荒浜地域、<sup>ゆりあげ</sup>閑上地域等の現地を視察し、早期復旧や災害に強い土地改良事業の必要性を再確認していた。

# 豊 沢 ダ ム 竣 工 50 周 年 催 記 念 事 業 開 催

## ▶ 多数の市民が参加

豊沢ダムの竣工 50 周年を記念して同記念事業実行委員会（会長：平賀巖豊沢川土地改良区理事長）では、水の大切さと、豊沢ダムが果たしている役割について理解を深めてもらおうと 6 月から延べ 4 回にわたって記念イベントを開催し、花巻市住民など約 500 名が参加した。

イベントは、ダム上流域の水

源涵養林への植樹とヤマメ・イワナ放流（6/4）、こども川遊び大会（7/31）、豊沢湖ポート遊覧（8/7）、豊沢湖溪流釣り大会（9/25）など季節に合わせて実施された。豊沢湖ポート遊覧会には、豊沢ダム湖底に沈んでいる旧豊沢郷の出身者 5 名が招かれ、ダム湖にお酒と花束を手向けながら昔の思い出を語



り合っていた。

参加者は思い思いに水と豊沢ダムが創り出す豊かな自然を満喫し、のどかな休日を過ごしていた。



# お い し い お 米 は ど う や っ て で き る の か な

## ▶ 水土里ネット猿ヶ石北部が農業用施設の多面的機能を PR!

水土里ネット猿ヶ石北部（小田島峰雄理事長）は、8 月 31 日花巻市立東和小学校 4 年生を対象に同水土里ネットが管理する 3 つの農業用施設の見学会を開催した。

この見学会は、国営造成施設管理体制整備促進事業の推進活動の一環として行われたもので、今年は東北農政局猿ヶ石川農業水利事業建設所と合同で行った。

東和小学校で行われた開会式で、杉山哲也事務局長は「今日は皆さんが、日頃食べているおいしいお米や野菜をつくるのに欠かせない農業用水に関連する施設の役割を学んでいただく。本来だと田瀬ダムを見学してもらいたかったが、3 月の大震災で車輛が通行不可能になったた

め、他の 3 つの施設を見学していただくことになった。秋においしいお米ができるまでの過程を学んでほしい」と挨拶を述べた。

最初に、田瀬ダムができるまでの歴史と昔の地域の人々の生活を学んだ後、県営圃場整備事業を行った町井地区までバスで移動し、パイプラインや中央幹線用水路の除塵機、猪鼻分水工を見学した。

特に水路に設置された除塵機



【除塵機の操作盤の説明をする猿ヶ石川農業水利事業所職員】



の見学では、操作体験を行い、ゴミを除去したり緊急停止するなどの自動制御の動作に目を丸くして驚いていた。

また、10 月 15、16 日に花巻市東和町で開催された「2011 とうわ産業祭り」、10 月 22、23 日に同市で開催された「JA いわて花巻農業まつり」の中でも水土里ネットや農業用施設の多面的機能が紹介され、好評を博していた。



【2011 とうわ産業まつりに出展する水土里ネット猿ヶ石北部】

# 越前堰の歴史と農業水利施設の役割を学ぶ

## ▶ 越前堰学習会を開催

水土里ネット越前堰（田沼齊理事長）と水土里ネット岩手山麓連合（伊東徳也理事長）では、それぞれの受益地周辺にある盛岡市と滝沢村の小学校3校の4年生ら、それぞれ90名ほどを対象に、水の大切さや農業水利施設の役割を学んでもらう目的で、6月と8月の2回にわたって「越前堰学習会」を開催した。

参加した児童らは、田沼理事長から農業水利施設の役割、水の大切さについて学んだ後、当地域の歴史に詳しい主濱恵悦さ



【児童たちに説明する田沼理事長】

んから、越前堰を開削した綾織越前広信の功績や天秤棒による水汲み、洗濯板での洗濯等の昔の生活の様子を聞き、水との密接な結びつきに、感心している様子であった。

その後、越前堰や岩洞用水に



ついて記されている「千が窪石碑」や越前堰の源流である「白川沢」を見学した。

最後に「岩洞用水円筒分土工」を訪れ、水土里ネット岩手山麓連合職員から「この円筒分土工は、一番多い時期で1秒間に8トンの水を約5ヶ月間流すことになり、その水量は、滝沢村民が使う水量に換算すると、約14年分になる」等の説明を受けた。児童たちは、分土工から湧き出る大量の水を間近に見てその迫力に驚いていた。

# TPPで日本の農業はどうか？

## ▶ TPP等と食料・農林水産業・地域経済を考える岩手県民会議が開催される

岩手県農業協同組合中央会（田沼征彦会長）などを構成団体とする「TPP等と食料・農林水産業・地域経済を考える岩手県民会議」は、8月5日に盛岡市内の岩手県民情報交流センター（アイーナ）において第2回の全体会等を開催し、約80

名が参加した。

研修の講師である横山英信岩手大学人文社会科学部教授は「TPP交渉に参加すると、日本農業は安価な輸入農産物が大量に流入し、大打撃を受けてしまう」と強調した。

同県民会議が1月の発足時に



始めた「TPP交渉参加反対岩手県民20万人署名活動」は、8月3日現在で14万8千人分の署名を集めており、県民のTPP問題に対する関心の高さを伺わせるものとなった。

